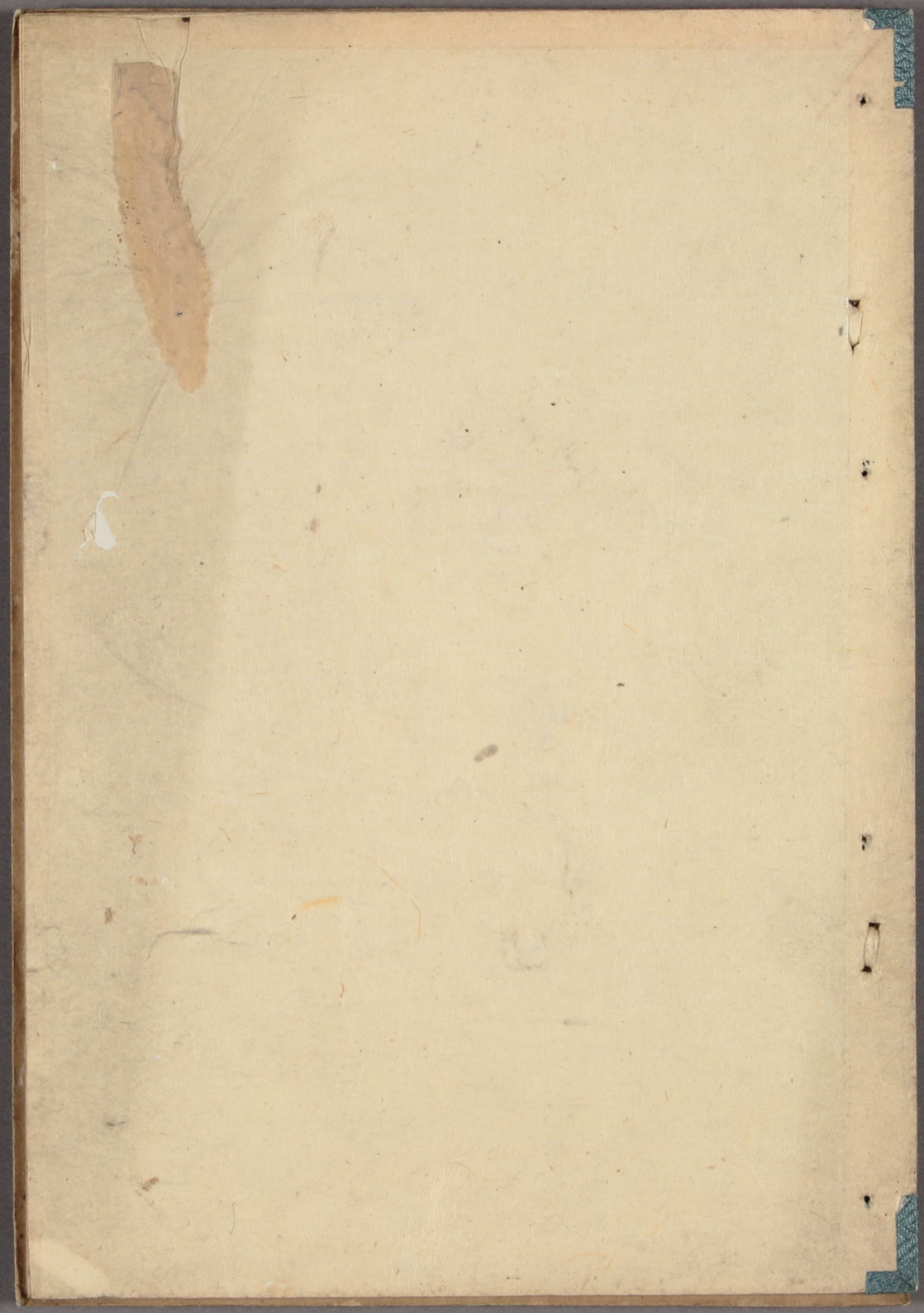

又はあるときは
中間の人ねは都の郷の
帰路に入ハ去る思のはる
ばるに路よりいとふ
まてを去て集て三重衣
と名づけ思そのこゝ路ハ

[illegible]

[illegible]の十三年

の正月あり[illegible]

[illegible]八遍[illegible]梅の[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]八あり[illegible]

[illegible]人少人の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月をあはれと
ながめるるハ
今宵今宵と
知人をのすめるも
初もの
枝

つくるき
ものをとしを
ふるのハ秋
すきうえ
つきを
とときを
信濃の

天保二のとし也月中道

三季夜

戊寅記行

美知ひこ翁

人くまなきまゝ袖のさすらひつゝ
ふるさとを思ふ姉ゝ[illegible]ぬあり忘れ者
[illegible]すゝ[illegible]八月十八日の夕暮を
[illegible]ふるさとの大戸の松へよりて
[illegible]品川をみるに[illegible]ぬ
[illegible]嵐も[illegible]の

駒にしのをとめりまそろしくて大
江御見ひきてうをとめしくなくさみん
とて林泉中しき品川の清風ちりき
おもひてに盡泳しきほぬ娯しき限りある
へし我これ四方わか情知乃名務なるゝ
物する条件の色をやかなる中にもや古
一仲うえひおきる餘ハ華種乃味知りて
きこゆる一ふしをつゝや又思ふるかね

お保ゝ後ままる詠つるまゝんの和すむれ
きほしらん

初花に涙ゝけんや旅さくれ
暁ゝ行慮萬こゝ病をとよふきてるる
ことけかわ

咲てこするこ我も行程櫻今

筥根山中

筥王ゝ袖もなつゝし　芝霞盈子

二

山路のさくれる事を注ぐと
雨雲の倦しく降る夕暮の林泉黒

湯本にて

くもるものこの能勢路のあるまつ
不二のよく見えるハ事蹟の名根板
山吹の三月ハ初しけるとあ
雪まをすもて言ふ二の川
花ゆしんもとやあ蕉堪さん

清見寺国之礼禅剃なる式三種の松田子
の流不二ととあるとてるうの形この一望
乃ち礼ものて窮信の言天ふ涼
さく中金くなん文能の山寺のあ色
乃ち信濃ものし
むすよすてうくあるとあ言むこの

こ部の山

老ちるう世ものはらん妻の著

山ゝもやをそ〳〵名をとゝうつの山
ひとゝはるかゝすみ一ゝまつゝ始をうゝとゝを
訪すきやゝはゝゝ
九十川三井の俗名は勇ゝ世
小夜中山
この山の麓に佛いとゝ女性あゝつ
ゝ軒に一ゝ村や 鈴ちく
山里は道も忘し蘭の花

旅すまゝ小ゝ傘忘し夕柳
袋井利生を中一業師ゝ信つ
この辺は虫いのゝふゝ山
はゝゝゝゝ天竺のまる丁坊ゝ
原風ゝ中ゝの高きいゝまて後彼の
中ゝまけゝまゝて俗今ゝ呂今東南海
一点はものあきゝのゝんて
松ゝ原ゝふ本中ゝゝ伊呂ち陰

美枝鳥ハ花にもかの る

四月末の六〻熟田にまいりてうた

うゑそめもうゑき葉志ゝれは延言

呈表をうたうた

いつやうんまちも名古屋の三河川

西西原に涼しひゆるゝ京都

きつゝひゝみる豊田川もくゝ人ゝ

待り旦白菊のうゝあゝ人のうゝる

ふゝとひなゝみ

枇杷園のうゝ縄みゝ志のひる日常の程き

海士のゝく縄みゝ志のひる日常の程き

をあゝれゝ逐る白る山法持ちふゝ

旅衣乃ほゝりをさまし

摩ハ中ゝよう芝もはきも志ゝ

いつゝの海ゝ

吹する形ゝ也ゝ

まことにしるすと歳は
いさ法師ときゆるしくらべ峠
白雲にまつまでいくるうら新
まさしらこころ白もの伊勢乃老
葛葉も涼とさくやうすき
新栖も苔もむすまでかけ荷
この多栖いきの為屋生こころ
為家

伊勢法楽

思ひしらぬひとなし神路山
内外の法社の幣くまつる同り
杖筆ら九らをきくこと
ふるをそ

悔るはいとまきますし鹿の繋
新熊野の実を下る
山のトよ心あるを里ハ変変を生

谷の戸をきまや椿よくみなゐる

曙やさしくてまさきよりちらる叶ゆり乃

なきとかりや

家もうく古しとそいのる二見の日

はしゐて二見の鏡をおろ世

文臺の不ぶ志を恥　中

世義寺　蘭の坊

夕ぐれも保越きしや　北日さす

夕ぐれや世義寺ハ若も従さ帰る

、

深きれくいその山田の早乙女ゐる

錦袖なく人里いふ勿しかんこゐる

萄やそとまけかしらや　蓑苗

明星の宴座

梼る田ハ濡のくしくる　曙望

豊久野より瓜小屋もあれ畑中に
絵掛松あるの所にある人あり
五月雨ふれ月にてらつゝ三上山
日の暮ゝ松のとゝくもあきしく秋
四条河原
祇園社の門前
南禅寺にて

禅ふくや屋の つまゝし寺 土家
黒谷
阿弥陀ヶ峯 ゆきて誠すゝ 光明寺
加茂の競馬をつくる
鞍馬に一泊あるよりもあき
これハ国弱をゆりひあてて
中ゝなり
因幡の社にて

[illegible]

初の花さくころ時をえく法新堂

うのうしすもたれの地あれ高野寺

時ふるはしくあけくれのもの

曙時小教督屋の行

時雨まもまぬあしたきりす

葉さくらの夏八大井のあしゐ山

ちりつくるあれ鳴るの塔れ売

[illegible]

おりうすようるるるるる年　弥生

ロくしくわすあるすくる土十捕

美くるる民のくくくるくくを

ア人て通る行もくるくくる二番州

美くくあ毎級もいのき菩提る

小雪月毎日信去四行よ詩て作る

宮まのし大口くくて老くけす

美れ姫松をくる

水ぬる月も物さびしうや華ひきく
蓮の葉葉の露結うけて百涼し
うら世界
萩やうくんもあり男小さうつき
蔓水やタ点の爲よ云ぬもの
生もみぢよ山ぬしうしやタすぬ
○中仏ろくいて誠の国よ
うしろかかるのおよ入る

生の家より文のみもくまをうつ
れい家蜜の赤ぬ物を中ゆ
実蜜の生のいくく遠ふ
月月ぬくくいてもも多賀移子
稲つくやすのもも物蜜の屋
すのもし地名蜜蜜湖の屋乃
ぬくやぬら萩の葉あり
月涼し稲葉の芭蕉やくく

うるまーやはたし三季をみる孫きろも

いつさむつの稽小あらそまそそ

田の畔りえくもも蒼む結稼代

和とそまや毛茅もつく栗の名

とるまそいまさからの異熟とそまん

鮮れ掛よそうう右の耳

井の浦

おふりや芋彼ふあそよ屋の猪

多ち八情まよ宗盛の跡を継甲斐の

新書ホをおさ冊

多ちいそ摩ち衣の伝連そし

安毛乃関彩海ホ変しそ松柏新みや

そそ帝

新よあそあそを富樫ら冥の伝

宮ホそのまそれか義経月お代

宮ハ月のもちりのまら

[illegible]のなかにしんやゆいま

雪ハ中さしの閑居瓜生の

秋天よ蓮月の睡をそそく

[illegible]屋川の水よ流まけ飛

[illegible]ふるの根をそそいでる

[illegible]の[illegible]花[illegible]生[illegible]ある[illegible]屋

年徒[illegible]亭　[illegible]略

くくさまきもの[illegible]を[illegible]むあるかりを

八月一日園[illegible]る廉古舎

芒拝よいうあるもあれおけきの人

おもを移の更級やこ[illegible]いら根のもとを

[illegible]の[illegible]冊[illegible]を[illegible]

移ふい白空う旧里和尼い

やうの月のさ[illegible]北枝う雲しんん

倶梨迦羅峠　前略

婦婦のあ[illegible]も[illegible]秋の虫

越くいあやしき人のかゝなと怨ろしき
古路もうちきゝへつゝやうく神通川
うちすきぬれはつゐになりぬさて富山の宿
しかるくはしろなる志きる旅あくらまち
める僧法師の色あきみちときしあまり
をとある旦人くをとむひかもとて清く
私とさ折つまみつゝはまちやさまての
旅をとふる娘しさ狩よ假りなるとふりん

ひとあまし蹟かくさん廿三郎記

。

ら浪乃みち孫や翁も実よ便りて
多侭和せ山行先き入日し
其人を聖の昔ありしことを語るすら
論して富山の人くむつゝ志てしむ
都もあふきし身の老の家をとてしなあ
しなさか山の高き山くみつゝ越

七尾酒くみつくす[illegible]のを
すてゝ出[illegible]れば[illegible]
[illegible]山の磯ふる[illegible]
かゝる[illegible]してひるすきの一巻の
悔を思ふのゝ長日[illegible]

渭川

[illegible]三時やうの[illegible]
[illegible]日[illegible]

を磯しゝ[illegible]のむ[illegible]
くゝひゝくゝ[illegible]もの[illegible]
よゝ[illegible]ものの人[illegible]
いゝ[illegible]

片見てゝくゝ[illegible]

要女の橋

秋[illegible]の[illegible]

[illegible]月九[illegible]

[illegible]ひ越後の国[illegible]田のそむ
[illegible]
日向菱の[illegible]
[illegible]
[illegible]
善光寺
[illegible]
[illegible]

[illegible]の形[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

天保二癸卯歳秋九月

爐扇書